

# 令和版狭山市郷土かるたの制作進む

狭山市の郷土かるたは、昭和49年（1974年）に一度制作されましたが、現在ではわずかしか残っておらず、イベント等で展示されるだけとなっていました。ぜひ入手したいという市民の要望もあり、昨年度サンパーク奥富の提案事業として市民文化課と共同で「狭山市郷土かるた検討委員会」が立ち上がり、事業が始まりました。



昭和版狭山市郷土かるた

この事業は、郷土かるたを発行することで、狭山を知り、狭山を愛するきっかけとなる事をめざしていくもので、狭山市内の言い伝えや歴史、風景などを解説する読札と、池原昭治氏の童絵というほのぼのとしたタッチの絵札で、狭山の魅力を伝えることを目的としています。

郷土かるたの制作は、まず、検討委員会のメンバーにより、人物・風景・行事・歴史文化・産業などのジャンル毎にテーマが選定され、市民から五七五調の読札句を募集することになりました。私たち狭山市文化団体連合会は「文化人を知ろうプロジェクト」の活動として郷土かるた制作事業に参加し、読札の募集広報や、応募された読札の一次選考などで協力してきました。コロナ禍での活動でしたが、何度もプロジェクト会議を開き、頭文字とテーマを見比べながら、最も相応しい読札句を選ぶ作業を行いました。足りない頭文字については再募集するなどして、今年3月には、昭和版の郷土かるたも活かしつつ、現代的な狭山の特徴も読み込まれた、あいうえお46首の読札候補が選考されました。この間、池原昭治氏による絵札制作は並行して行われ、その後、読札の裏に書かれる解説文の校正作業を経て、5月の選考会議にて最終案が確定しました。



検討委員会メンバーによる絵札の確認

令和版狭山市郷土かるたは、現在、氏で内容の確認作業中で、正式に決定次第サンパーク奥富などで販売される予定です(価格は未定)。

文団連では来年2月の狭山市民芸術祭で「令和版狭山市郷土かるた展」を開催し、かるたの販売も行う予定です。また今後、狭山市立博物館にて池原昭治氏の原画展も検討されています。

## 事務局便り

今年度より事務局長を担当させていただきます。前役の岸野さんにご指導を受けながら、文団連の為に努めて行きたいと思っております。今年度は、団体会員19団体、登録会員22団体、個人会員30名、賛助会員47件、総会員数 1,055名の構成となります。

岸野さん、長い間お疲れ様でした。そして会員の皆様よろしくお願いたします。

事務局長 藤寿紫峰